

## 心理的安全性の高い学校を

令和5年度 1学期始業式 校長の言葉

今年からこの第八中学校の校長になった馬場と申します。皆さんに会える今日の日を、ずっと楽しみにしていました。昨年度までは、同じ市内の神代中学校にいました、そのときも、八中生の評判はよく耳にしました。「明るくて、きちんとした生徒が多い学校ですよ。」という良い評判ばかりでした。そんな皆さんと会えて、とてもうれしく思っています。

さて、今日は学校のスタートとして、皆さんに学校のスローガンを知ってほしいと思います。今年のスローガンは「心理的安全性の高いさわやかな学校を目指して“自分らしく飾らずに”」です。今日は、この中の「心理的安全性」という言葉についてお話をします。

この言葉は、昨年から学校のスローガンとしてたびたび目にしていたと思いますが、どういう意味かわかるでしょうか。ここで改めて考えてみましょう。

「心理的安全性」という言葉は、もともと、今から約20年前に、ハーバード大学のエイミー・エドモンドソン教授という人が提唱したものです。エドモンドソン教授は、高い収益を上げ、そこで働く人たちが大変うまくいっている会社をいくつも調べてみたところ、次のような特徴が分かったそうです。そこで働く人々は、

「間違いを認めたり、質問をしたり、新しいアイデアを提案したりしても、チームの誰もが自分に恥をかかせたり、罰したりしないと、そこで働く誰もがわかっている」

そういう特徴です。

つまり、自分が自分らしくいて、自分なりの意見を言っても、しっかりと受け止めてくれる人たちがいる会社こそ、結果的に素晴らしい業績を上げるというのです。これは、クラスや学校でも同じではないでしょうか。

「あいつ、こんなことも知らないのか」

「あんな失敗をしでかしたドジな奴め」

「あいつは、いると邪魔なんだよな」

と、もし言われるような集団の中にいたとしたら、どうでしょう。考えるだけでもぞっとしますね。自分のことを、恥をかかせたり、馬鹿にしたりするような人がいたら、自分らしさを発揮できません。それは、結果としてその集団自体が悪くなっていきます。逆に、

「知らないことがあっても発言していいんだよ」

「失敗は大目にみよう。誰だって失敗はあるさ」

「ここにいる誰が欠けても、それは私たちにとってよくないことだ。一人一人みんなが必要なんだ」

そう言いあえるようなクラスや学校であれば、誰もが楽しい毎日を送ることができます。みんなが楽しいということは、その集団は何をやってもうまくいくということです。これが、「心理的安全性」が高いという意味です。

この言葉を、これからの学校生活でいつでも思い出してください。そして、今、自分は「心理的安全性」を高めるような行動ができているか振り返ってみてください。これからも第八中学校の生徒たち、先生たちは、このことを目標にして進んでいこうと思います。

最後に、マスクについてお話をします。4月からは、マスクの着用を求めないことになりました。自分の判断でマスクをつけてもつけなくても構いません。また、人に対して、マスクをつける、つけないを強要することがあってはなりません。給食も、今まで黙食といって黙って食べていましたが、これからはしゃべってもいいことになりました。もちろん、みんなが楽しく食事できるようマナーを守ることは大切ですが、これからは少しずつコロナによる制限が緩和されます。状況を見ながら、判断をしてください。

これで、私の話を終わります。